

■ 盆踊り 〽 謡い継がれる盆口説き 〽

野島のお盆はにぎやかです。久しぶりに家族や親せき、幼なじみにも会えます。いつもは百五〇人の島の人口が何倍にもふくれあがります。漁港に面した広場は、草も刈られ、やぐらも組まれ、盆踊りが始まるのを待っています。あたりが暗くなる頃には、盆踊りが始まります。

“あゝああ音頭をちよいというてみましょ

音頭出したが はやし声を頼まあ “

一年の間になくなられた方をしので、何重にもなる円をつくり、

“よゝいやさあゝ、よゝいやなあゝ”

と、合いの手を入れながら、延々と夜通し踊り続けます。

このとき、謡うたわれるのが、盆口説ぼんくどきです。締太鼓しめだいこの音に合わせて、音頭を口説きます。

その口説きが野島に伝わったのは、安土桃山時代と言われ、今でも、お盆だけではなく、運動会や文化祭など、島の人が多く集まるところで謡い踊られているのです。なぜ、盆口説きはこんなに長く謡い継がれているのでしょうか。ここで、いくつかある盆口説きの中のひとつ「いろは口説き」の始めの一部を見てみましょう。

「い」 幼（いとけな） きをば愛（あい） して通（とお）れ （幼いものこそ、かわいがってやりなさい）

「ろ」 老（ろう） は敬（うやま） い無礼（ぶれい） をするな（お年寄りには敬い、失礼なことをしてはいけません）

「は」 腹（はら） がたつとも過言（かごん） は言（い） うな（たとえ、腹が立っても、言い過ぎてはいけません）

「に」 憎（にく） い仇（かたき） は生（い） かけて置（お） きやれ（憎らしいと思っても、いいところを認めなさい）

「ほ」 誉（ほ） められるとも高慢（こうまん） するな （たとえ、ほめられたとしても、いばってははいけません）



野島小中学校の児童生徒も、毎年「野島盆踊り保存会」の方に盆踊りを教えていただき、運動会や文化祭で地域の方といっしょに楽しく踊っています。いつも踊りながら聞いている「盆口説き」ですが、ことばの意味などあまり考えたことはありませんでした。

そこで、昔の言葉がつかわれていて、少しむずかしいのですが、歌詞の意味や昔の盆踊りの様子などを詳しく知りたくなり、みんなで調べてみることにしました。

昨年度は、「野島盆踊り保存会」の方にお願ひして、お話を聞かせていただきました。昔の島の暮らしの様子、子ども頃のお盆や正月の時の楽しかった思い出、盆口説きにかける島の方々の気持ち、「いろは口説き」の歌詞の意味など、たくさんの事を聞いたり、調べたりしました。今年度は、昨年度の映像を見ながら、盆口説きについての学習を進めました。

お話の中で、特に心に残ったのは、昔の人は、みんなでいっしょに生活していくために、大切な心がまえやきまりを「盆口説き」にして、大人から子どもや孫に伝えていたということでした。

調べたことの中から「いろは口説き」を取り上げ、カルタにしてまとめました。完成したカルタを互いに見せ合い、わかったことや感想をみんなで発表しあいました。また、文化祭や参観日に地域の方やお家の方にも見ていただきました。

野島に伝わる大切な文化である「盆口説き」がいつまでも残ってほしいと思いました。

資料提供 「野島盆口説き保存会」



■ 問い 1 「いろは口説き」の意味を読んで、どんなことを感じましたか。

■ 問い 2 みんなが気持ちよく、いっしょに生活するにはどんなことが大切でしょう。

